

蒲江の岬と島々の野鳥

深島・屋形島・名護屋地域はタブやスダジイなどの豊かな照葉樹林が残っており、森林をすみかとする鳥を中心として多くの野鳥が生息しています。

また、深島、屋形島は渡り鳥のメインストリートである豊後水道にあり、春や秋にたくさんの鳥たちが立ち寄ります。



【鳥たちの生活と自然環境】

海の上や海岸、草原や森の中など自然環境により、生息している鳥の種類が異なります。

海上

深島や屋形島周辺の海上や名護屋湾では、ウミネコやカワウなどが魚をとっています。湾内の養殖生け簀付近では、コサギやアオサギなどのサギ類が餌や魚の稚魚をねらって集まっています。冬にはユリカモメやセグロカモメ、ウミスズメなどが越冬の為にやってきます。

海岸

潮の引いた海岸では、イソシギやイソヒヨドリ、渡り途中のキアシシギなどが水辺の小動物を探して歩き回っています。また、エサとりの途中で海岸に上がり濡れた羽根を乾かしているカワウの集団が見られます。

草原

草原ではホオジロや夏鳥のオオヨシキリが繁殖し、冬にはアオジ、ミヤマホオジロなどが越冬の為にやってきます。

森林

森林地帯では、生態系の頂点に立つクマタカが餌になる哺乳類や鳥類を探して上空を飛び、林の中ではシジュウカラやメジロ、エナガなどが昆虫や木の実を求めて移動しています。



天然記念物カラスバト（深島）



【鳥の渡り】

屋形島や深島のある豊後水道は渡り鳥の移動コースにあたり、春や秋には色々な鳥が渡ります。小鳥類は害敵を避けて夜間渡ったり、ヒヨドリなどのように群れを作って移動します。秋、タカの仲間のサシバは、群れをなして四国から深島の上空を通り九州南岸を南へ向けて渡って行きます。鳥の渡りの仕方では分けてみましょう。



秋、南にわたるサシバの群れ(深島上空)

夏鳥

春先、日本にやってきて繁殖し、秋から冬にかけては南の東南アジアなどに渡って行くもので、ツバメ、オオルリ、ホトトギスなどです。

冬鳥

秋、日本にやってきて冬を越し、春にシベリアなどの北の地方に渡って行く鳥で、ジョウビタキやセグロカモメ、マガモです。

旅鳥

日本より北のシベリアやカムチャツカなどで繁殖し、冬、日本より南の東南アジアで越冬をするため、春や秋に日本を通過して行く鳥たちです。キョウジョシギやキアシシギなどのシギ・チドリの仲間です。

留鳥

日本で繁殖し、一年中見られる鳥です。メジロやホオジロ、トビ、キジバトなどです。



タカの渡り



冬鳥のルリビタキ (葛原林道)



留鳥のエナガ (葛原林道)